

母校で働く先生！

毎回テーマに沿って4人の先生にご登場いただく本企画の6回目は「母校で働く先生」。「先生」として、「人生の先輩」として、そして「母校の先輩」として伝えたい言葉を語っていただきました。

Q1 ≡ プロフィール

[FILE NO.1]



佐沼高校(宮城・県立)
3年主任・進路指導部
国語担当
渡邊 廉先生(教員歴17年)

[FILE NO.2]



広島文教女子大学附属高校(広島・私立)
1年担任・進路指導・生徒指導担当
国語担当
光石千夏先生(教員歴6年)

[FILE NO.3]



愛知高校(愛知・私立)
電算処理・
家庭科担当
小嶋由希子先生(教員歴4年)

[FILE NO.4]



長岡大手高校(新潟・県立)
1学年主任・進路指導部
国語担当
保倉 剛先生(教員歴21年)

Q2 ≡ 教員を志した理由

父 が教員だったことと心理学を学びたいという理由から大学の教育学部に進学。講義や演習を受け、家庭教師や塾講師のアルバイトをするうちに、子どもと関わる仕事に興味をもちました。大学院に進みましたが、研究職より実際に子どもに関わるほうが性に合っていると確信。国語を選んだのは、方言や言い回し、アクセントなどを学ぶことが好きだったからです。

中 学時代、「生徒会活動をしてみたいけれど自信がない」と悩んでいました。その時、「あなたならできる。大丈夫だから」と声をかけてくださった先生のおかげで、一步を踏み出すことができ学校生活がより充実しました。この経験が今の私を支えてくれています。私も行き詰まったり悩んだりしている生徒の背中を押してあげられる、そんな教員になりたいと思いました。

食 べることが好きで、ずっと食品に関わる職業に就きたいと考えていました。一方で、学生時代に教育実習を経験したのですが、教員という仕事の苦労や大変さを知るとともに生徒と触れ合うことの楽しさも感じました。就職活動をする年にちょうど母校で家庭科教員を募集していることを知り、母校で教員になれるなら就職を決めました。

大 学4年の時、就職活動をし就いた職場に赴任を命じられたのが、故郷の長岡とよく似たとある地方都市。その地で「子どもたちのために少しでもこの村を良くしたい」という純粋な気持ちから様々な活動をし、根を張って暮らす人々と接することで、自分も故郷に貢献したいと帰郷を決心。「故郷への貢献＝新潟を背負う人材を育てる」職業を選びました。

Q3 ≡ 教員として大切にしていること

生 徒の話聞くこと、ちゃんと話し合うこと、きっかけがあれば話を広げることなどを心がけています。私は実は人見知りなのですが、いろいろな人と関わり対話を広げたいと思っています。中学、高校の教員免許をとったのも、そのくらいの人に近い生徒たちと、話しながら互いに学び合いたいと思ったから。生徒の瑞々しい発想にいつも驚かされます。

当 たり前かもしれませんが「待つ」ということを大切にしています。一瞬のやりとりで感情的にならず、生徒の話じっくり聞くよう心がけています。すべて聞かなくても生徒が言いたいことがわかることもあります。それでも生徒自身の言葉で話し終えるまで待つ。なぜなら、自分の思いや考えを自分の言葉で相手に伝えられる人になってほしいからです。

自 ら考え、積極的に行動する生徒を育てるということです。生徒には、自分たちの抱えている問題や課題をまず振り返り、最終的には解決していけるような行動力を身につけてほしいと考えています。ホームルームや部活動などでの話し合いでも、生徒が主体となって進めていけるよう意識しています。また私自身も常に主体性を大切に仕事をしています。

生 徒を預かるのは一時。だからこそ絶対的な存在としてではなく等身大の一人の大人として、次に進む環境に責任をもって送り出せるよう誠実に接していきたい。私は谷川俊太郎の『みみをすます』が好きですが、この詩のように過去にも未来にも、どこにでもつながっていけるような想像力豊かな人間になりたいし、生徒にもそうあってほしいと願っています。

Q4 ≡ 最近嬉しかった出来事

今 は3年生の主任としていろいろなことに追われていますが、やはり日々の授業を大切にしています。生徒がしっかり授業についてきてくれて、理解してくれて、わかった、できたと思ってくれる。そんな会心の授業ができたときの嬉しさに勝るものはありません。クラス全体が「わかる!」という雰囲気になることがあります。毎回そういう授業を目指しています。

同 級生と一緒にの時にはとても元気で楽しそうですが、教員と1対1で話す場面ではうまく自分の思いを伝えられず、口数が減ってしまう生徒。そんな生徒が何度も個人面談を重ねるなかで、少しずつ自分自身の言葉で話してくれるようになりました。ある時「これまでの担任の先生で光石先生がいちばん良かった。しっかり話を聞いてくれる」と言ってくれました。

今 年の3月に、教員になって初めての卒業生を送り出しました。最近、その卒業生たちと一緒にご飯を食べに行き、とても素敵な時間を過ごせたことが印象に残っています。大学生活の話、アルバイトの話……。たくさんの出来事を聞かせてくれ、新たな環境の中でがんばっている姿を垣間見ることができ、私も元気をもらうことができました。

地 元に赴任してからというもの、かつての同級生のお子さんを生徒として迎え教えることが増えてきました。緊張して臨んでいた今年の入学式でも、あるお母さんからいきなりファーストネームで呼ばれてびっくり。保育所、小、中の同級生で約30年ぶりの再会でした。とても嬉しくて、一瞬、同僚や他の保護者の方々の目を忘れ話し込んでしまいました。

Q5 ≡ 最近気になっていること

3 年生の行く末に尽きます。初めての学年主任として持ち上がってきた学年で、勢いがあり元気でもとてもいい学年なんです。朝や放課後に生徒が勉強している風景を目にすると、撒いてきた種が芽を出しつつあるのかなと思います。挨拶、掃除、困っている人を助ける……。そんな凡事徹底を大切にし、日々の努力を積み重ね、自分の進路を目指してほしいです。

担 任している生徒とそのクラスがこれからどのように成長していくのか、ということが気になっています。彼女たちと出会って約半年。まだまだ大きなパワーを秘めていると思っています。残り半年、彼女たちが学校生活のさまざまな経験のなかでどのように力を発揮し、どのようにクラスとして成長するのか、時に導きながら見守りたいと思っています。

大 学入試制度の変化や生徒、保護者の方々の多様なニーズに対応するために、学校も変わっていかなくてはなりません。方法はさまざまですが、まず私ができることとして、授業の質の向上を目標に日々取り組んでいます。授業を通して生徒自らが学ぶ意欲をもち学習に取り組んでいけるきっかけを提供したい。卒業生として、より良い母校にしたいです。

本 校は昔は伝統ある女学校として確固たるアイデンティティがあったはずですが、共学化以降それをはっきりとせず、模索し続けている印象があります。本県も少子化に伴い学校の統廃合や募集定員の削減が進んでおり、この先本校がどう地域に認知され、生き残っていくのかが気になります。OBとしては「長岡市民の良識」であってほしいです。

Q6 ≡ 今後、挑戦してみたいこと

国 語科担当としては、もっと生徒を動かせる、生徒の頭をしっかりと働かせる授業に挑戦したいです。学年主任としては、初の取り組みとして3学年全員との2者面談をやったので、このまま2周目、できれば3周目もやりたいです。集団で見るとはまた違う、生徒の個性を垣間見られる機会はやはり楽しい! 担任の先生方と情報交換を密にしながら取り組みたいです。

こ れからさらにグローバルな時代になると、海外の高校から日本の高校へ留学してくる留学生が増えるのではないかと期待しています。その時に向けて日本語教育をしっかりと勉強したいと考えています。また、本校の伝統である「礼法」にも興味をもっています。卒業生として、この伝統をいつか引き継ぎたいと思っています。

現 在私は料理部の顧問を務めていますが、部の活動内容をしっかり検討し改革を進めていきたいと思っています。例えば、ただみんなで調理して食べるというのではなく、食材の調達から下準備、後片付けまですべてを含め部員たちだけで実行できるようにしていきたいと考えています。また、指導者である私自身も、もっと調理技術を磨いていきたいです。

本 校では、自分の代で廃止された修学旅行が、自分が主任を務める学年で約30年ぶりに復活することになりました。何やら因縁めいたものを感じます。せっかくなら旅行先のさまざまな人々との交流を通じて有意義な時間を作り上げていきたいし、我々が先駆けとなることで、いずれ本校を象徴する行事へと成長していくことを期待します。

Q7 ≡ OB・OGとして生徒に伝えたいこと

っ い自分の後悔ややっておけばよかったということ、母校の後輩である今の生徒に重ねてしまい、指導が熱くなります。押し付けにならないよう気をつけながらも、やっぱり伝えたいのは「後悔しないようにがんばれ!」という言葉。また、学校行事で肩を組んで校歌を歌う光景は「佐高」の新しく素晴らしい伝統です。卒業式でも声高らかに歌ってください!

本 校で力を入れている「英語」「ICT」、そして「礼儀作法」。どれをとってもこれからの時代、女性が社会で活躍するためには欠かせません。本校は、今しか経験できないことに全力で取り組む皆さんをしっかりサポートしてくれる学校です。創設者、武田ミキ先生の教育理念「育心育人」を体現する女性になってください。私も皆さんと一緒に成長していきたいです。

同 じ環境にいたからこそ、生徒が感じている苦しさや大変さも理解してあげられると思っています。今、生徒たちががんばって取り組んでいる毎日の勉強や、部活動での練習の一つひとつが、必ず積み重なり自分たちのためになっていき、自分を成長させてくれるものであるのだと伝えたい。これからも生徒たちを一生懸命応援していきたいです。

女 学校時代から育まれている人間としての「美しさ」と、戊辰戦争、太平洋戦争、中越地震と、3度も復興を遂げた雪国越後・長岡人としての「しなやかさ」とを受け継いでいく人間であってほしい。本校は、表舞台には出なくても、長年に渡り地域や家庭を支える人材を数多く輩出してきたのだという誇りを抱いて、日々の学業に勤んでください。